

今日のキーワード 「参議院選挙」の焦点はアベノミクス（日本）

第24回参議院選挙は6月22日に公示、7月10日投開票の日程で、選挙戦が本格的に始まりました。今回の参議院選挙における有権者の関心は、主に社会保障と経済政策と言われており、焦点は「アベノミクス」を推進させるのか、後退させるのかの「選択」と考えることもできます。

ポイント1 与党が優勢 野党では共産党の支持が上昇

- 6月24日に主要各紙が行った世論調査によれば、与党が改選数（121議席）の過半数を超える勢い、などと報じられ、総じて与党が優勢との内容となっています。対する野党では、共産党などの支持率が上昇しています。選挙戦序盤での報道は、その後の人々の投票行動や選挙の趨勢に影響を与え、結果が事前予想と異なる、というケースはあります。与党が優勢と報じられれば、与党の行き過ぎた大勝を警戒した浮動票が野党へ流れ、与党が苦戦する可能性もあります。

ポイント2 参議院選挙の争点はアベノミクス 有権者の関心は社会保障と経済政策

- 有権者の関心は、主に社会保障と経済政策と言われています。自民党は公約として「アベノミクスの推進による成長と分配の好循環」、「保育の受け皿50万人分増、保育士の処遇改善」を掲げています。一方、野党第1党の民進党の公約は「格差は正へ分配と成長」、「保育士の月給5万円引き上げ」です。両党の公約に大きな差異を見出すことは難しいと思われます。結局、有権者は、もう1つの争点である、自民党を批判する「民・共の共闘」に対する評価や「憲法改正」に対する考え方で投票せざるを得なくなりそうです。



今後の展開 経済対策が拡大する可能性も

- 世論調査の通り与党が勝利した場合は、秋の経済対策の規模が拡大する可能性があります。真水で5兆円（事業規模10兆円）程度と考えられましたが、英国が欧州連合（EU）離脱「Brexit」を決断したことによる先行き不透明感の強まりを踏まえると、真水で7.5～10兆円の規模に近づくかもしれません。
- 6月28日の経済財政諮問会議において、安倍首

相は「Brexit」による実体経済への影響を議論する中で、特に国内中小企業への悪影響に懸念を表明しました。リーマンショック後の経済対策では、26.9兆円の事業規模に対し21.8兆円が中小企業向けの信用保証枠の拡大に充てられ、真水は5兆円弱でした。今回も真水そのものは5兆円程度に留められる可能性はあります。与党がどのような経済対策を打ち出すのか、大いに注目が集まりそうです。

ここもチェック！ 2016年6月30日 日本の株式市場 日本株式市場を巡る環境を整理
2016年6月24日 英国の国民投票 国民投票は「Brexit」

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。